

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772402257		
法人名	有限会社 陽春		
事業所名	グループホーム 陽春		
サービス種別	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府枚方市東田宮1-16-3		
自己評価作成日	平成30年2月15日	評価結果市町村受理日	平成30年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/28/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224
訪問調査日	平成30年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数なので、一人ひとりの健康状態等の変化にも早く気づき 利用者と職員のコミュニケーションもうまくとれています。 職員も入れ替わりが殆どなく、利用者ともなじみの関係が確立しています。 月2回の訪問診療と週1回の訪問看護を受け、利用者の健康状態を把握しています。食事は三食とも手作りで、料理の温度も大切にして、家族同様の家庭料理を提供しています。庭先に次々に咲く花等を楽しみながら リビングでは笑い声がたえないホームです。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

共用空間は明るく清潔感があり、利用者と共に制作した飾りやプランターの花等、季節感と家庭的な雰囲気を大切にしている。職員の定着がよく、利用者との馴染みの関係づくりが継続されている。季節感や彩りにも配慮した手作りの食事を継続し、職員と共に家庭的な雰囲気の中で食事が楽しめる環境である。年間計画に基づいた研修・日々のミーティング・ケア会議・サービス担当者会議を継続し、職員の資質向上と連携に努め、利用者の個別支援に反映している。24時間連絡体制の訪問診療と訪問看護との連携により、早期対応に努め家族の安心となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 評価	第 三 者 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示することにより、職員への周知はもちろん、外部の人へも公開している 入職時には理念について説明している	地域密着型サービスとしての意義と役割を盛り込んだ事業所独自の理念を継続して謳っている。理念を玄関に掲示し、職員や来訪者にも周知と共有を図っている。職員の定着がよく、浸透が深まっている。ミーティングや介護計画作成時には理念に立ち戻って話し合い、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧で地域の行事や活動の案内がある、年末には歳末パトロールにも参加し、地域の人達とも交流している	自治会に加入し、自治会副会長と民生委員の運営推進会議への参加もある。回覧板による情報交換を行い、地域の防災訓練・餅つき大会・歳末パトロールへの参加も継続している。気候の良い時期には近隣の公園に散歩に出かけ、花見会や防災訓練には利用者と共に参加し、公民館の行事があれば参加するように努めている。介護相談員の受け入れや子ども110番の活動も継続している。ボランティアの受け入れに向けて、マイレージに登録している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	空床の問合わせや相談には快く応じているが 地域の人々にもっと積極的に話しかけたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催している 地域包括支援センター職員・自治会副会長・民生委員・家族代表の方が出席し、地域の催しの案内や利用者の近況等話し合っサービス向上につなげている 出席者の意見等はノートに記録している	運営推進会議を2ヶ月に1回に年6回開催し、地域包括支援センター職員、自治会副会長、民生委員、利用者家族の出席がある。会議の際に利用者が参加者と一緒にお茶を飲み、外部の人と話したり交流できる機会を設けている。参加者から情報提供や提案を得て、地域行事に参加したり、枚方体操・ロコモ体操等を午前の体操に採り入れる等、活用やサービスに反映している	会議録は、個人情報に配慮しながら、玄関にファイルを設置する等、公開することが望まれる。

自己 第3	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の会合等は必ず出席し、市の担当者にも色々相談し助言を頂いている 介護相談員(1名)も毎月1回受け入れている「徘徊SOS」にも協力している	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、利用者や事業所の状況や取り組みを伝え、情報提供や助言を受けている。市主催の会議や集団指導に参加し、そこでの情報を運営に反映している。質問等があれば窓口訪問や電話で問い合わせ指導や助言を得ている。保護課のケースワーカーとも協働して支援している。介護相談員の受け入れや「徘徊SOS」を通して市との連携を図っている。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害を全職員が理解しており玄関の施錠は、やむを得ない場合のみ行っている 利用者の安全確保の為、身体拘束を行った事はあるが、その時は家族の同意も得て記録も残している	マニュアルを配布し、毎年、年間研修計画に盛り込んで「身体拘束の理解」の研修を実施し、職員の周知を図っている。重要事項説明書に身体拘束についての方針を明示し、契約時に利用者・家族に説明している。緊急やむを得ない対応として、家族に同意を得て最小限に実施し、解除に向けて取り組み解除に至った事例がある。基本的には玄関の施錠は行っていない。	緊急やむを得ない場合の対応に関して、定められた手続きや書式についての確認が望まれる。
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内では虐待が見過ごされない様注意している 高齢者虐待防止関連法について皆で勉強して、虐待防止に努めている		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度と日常生活自立支援事業についての研修に出席し、その内容を他の職員にも説明している 必要な方にはそれらを活用していきたい		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書を丁寧に説明して、了承を得た上で契約している		

グループホーム陽春

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時には積極的に声かけ、話し合いを行い、意見や要望を聞き取るようにしている 外部評価時の家族のアンケートも参考にして、職員間で話し合い、サービスの質の向上に取り組んでいる「ご意見箱」を玄関に設置している	家族の面会時には積極的に声をかけると共に、介護記録を読んでもらい利用者の日々の様子や状況を詳細に伝え、質問・意見・要望が出しやすいように配慮している。家族から把握した意見・要望は、毎日のミーティングと連絡ノートで情報共有し、速やかに支援に反映させるように努めている。玄関に「ご意見箱」を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	昼食後の休憩時間を利用してミーティングを行い、お互いに意見や要望を出し合い運営に反映させている	毎日昼食後にミーティングを行い、施設長も参加して職員の意見・提案を把握し、決定事項や周知が必要な内容については連絡ノートに記載している。2か月に1回ケア会議を実施し、全利用者の状態・支援内容を共有し、支援についての気づきや意見を出し合い、ケアや介護計画に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も毎日のように現場に来ており勤務状況を把握しながら向上心を持って働けるよう心がけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の力量を把握して外部研修へ参加する機会を持てる様にしている、事業所内では介護技術の相互研修も行い、ケアの向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と意見交換しながらサービスの質の向上を目指している		

自己 第3 者	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約の段階で本人の心身の状態や困っている事をよく聴き 安心を確保するための関係づくりに努めている	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談でこれまでの生活歴や病歴等詳しく聞き家族の願いや思いをくみとり、信頼関係を築くよう努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談でどのような支援が必要か話し合い、柔軟に対応するよう努めている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から職員は利用者の不安や喜び等 暮らしの中で分かち合い支えあっている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者の様子や出来事をきめ細かく家族に伝え、本人と家族との絆を大切にしながら協力しながら本人を支援している	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これ迄本人を支えてくれた馴染みの人や、孫、ひ孫も遊びに来て、他の利用者も一緒に楽しんでいる これからも交流が継続できるよう支援していく 馴染みの場所については家族との外出を支援している	入居時に把握した馴染みの人や場所についての情報は、「アセスメントシート」に記録し、入居後に把握した情報は介護記録に記録し共有している。家族・孫・ひ孫など身内の来訪が多く、来訪時には居室やリビングでゆっくり面会できるように配慮している。馴染みの場所については、家族との外出を願ひし、外出しやすいように支援している。

グループホーム陽春

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性は、すべての職員が把握し、調整役となって孤立しないよう気を配り支援している		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じて電話等で相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	少人数の利点を活かし一人ひとりの思いや希望は充分把握でき 細かな悩みや質問にも何度でも答えている 意思表示のできない利用者には心の声を聴けるよう努力している	入居時に把握した利用者・家族の思いや意向については、「アセスメントシート」に記録し、入居後に把握した内容は介護記録に記録し共有している。6ヶ月毎の計画見直しの際には家族に意見や要望を聴取し、介護計画や支援に反映している。把握が困難な利用者については、表情や反応から汲み取ったり、代弁者として家族の意見を参考にし、把握に努めている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、本人や家族、特にキーパーソンの方から生活歴やサービス利用の経過等、詳しく聴き、馴染みの暮らしが出来るよう心がけている		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、心身状態の把握に努め「今できること」「したいこと」を考慮している		
26	(10)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム開設当初から職員が殆ど変わらず、長年に渡り本人と接し、その人その人の現状を把握し意見を出し合い介護計画に反映している 6ヶ月に一度見直しモニタリングを行っている	「基本情報」「アセスメント要約表」をもとに課題抽出し、介護計画を作成している。日々の支援状況や生活の様子は、介護記録に記録している。2ヶ月に1回ケア会議を実施し、利用者の状況を検討し、計画変更の必要性の有無を確信している。定期的には、6カ月に1回モニタリングと再アセスメントを行い、サービス担当者会議を実施し介護計画を見直している。見直す際には、主治医・訪問看護師等関係者の意見を採り入れている。	職員が利用者個々の介護計画を理解し、計画に基づいた支援の実施が明確になり、モニタリングの根拠となる介護記録の工夫が望まれる。

グループホーム陽春

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録には日々の様子と共に、その人らしい言葉使いでの表現も記入している職員間で情報を共有しながらケアプランの見直しに活かしている		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の日課を決めず、その日その日の要望に応じて柔軟な対応を心がけている 書類等の申請・代行も行っている		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員も運営推進会議に出席して、協力しながら支援している		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療も24時間体制で、安心して適切な医療を受けられるように支援している 利用者の急変時には病院の看護師に連絡して医師の指示を受けている 一人だけ娘さんの希望で以前よりのかかりつけ医を受診している	入居時に利用者・家族の意向を確認し、希望に沿った受診支援を行っている。月に2回24時間体制の訪問診療と、週に1回訪問看護を受けられる体制がある。訪問診療以外の受診は、家族支援が中心となっている。協力医療機関の歯科受診には職員が同行している。往診時・通院時の受診結果は介護記録に記録し、訪問看護については訪問看護記録がある。内容に応じて、ミーティングや連絡ノートで情報共有し、家族にも報告している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションより毎週1回来てもらい日常の健康管理について相談している		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して過ごせるよう、病院関係者と情報交換したり、早期退院に向けソーシャルワーカーと相談している		

自己 第3	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を作成して、利用者・家族に説明して同意を得ている、家族・主治医と充分話し合い、全員で方針を共有して対応していく	重度化・終末期に向けた事業所の方針を、重要事項説明書の「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」に明示し、契約時に説明し同意を得ている。「延命措置に関する意思確認書」についても説明し、意向確認を行っている。これまでに看取りを行った事例はないが、重度化の段階を迎えた場合には、家族・主治医と話し合いを重ね、可能な限り家族の意向に沿った支援を行う方針である。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年末迄、日赤の普及員を招いて応急手当等訓練を行っていた 今回より女性消防団員に訓練をお願いしている		
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	安全計画を作成し、年2回避難消火通報訓練を行っている 各人の移動能力を確認して、いざという時の誘導方法を話し合っている 自治会副会長より地域に事業所があることを説明してもらい災害時には協力してもらえる様お願いしている 災害時を想定して非常食を備蓄している	29年度は、年2回、通報・避難誘導・消火の総合訓練を、昼夜想定で行っている。全職員が、どちらか1回には参加できるように調整している。職員の緊急連絡網を作成し、非常災害時、特に夜間の火災時には、近隣の職員が緊急対応できる体制を整備している。地域の防災訓練に参加し、避難場所・避難経路を確認すると共に、運営推進会議で地域から協力を得られるようお願いしている。米、缶詰、水等非常食を備蓄、懐中電灯など備品も整備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中で、言葉かけには全職員気を配っている 誇りを傷つけないように接して、自尊心の尊重に努めている 年間研修計画に「プライバシー保護の理解」を盛り込んでいる	年間研修計画に採り入れて、「プライバシー保護の理解」の研修を毎年実施し、職員の理解を深めている。利用者への言葉かけや対応、また、職員間の伝達時も周囲に十分配慮し、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように取り組んでいる。個人記録類は書棚に保管し、個人名等がわからないようにカーテンを設置している。職員の守秘義務については、誓約書を交わしている。	

グループホーム陽春

自己 第3	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で何気ない会話の中から思いや希望を表せるよう働きかけている		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の個々の状態を把握しながら、一人ひとりのペースを大切にしている 徘徊の見守り、お喋りの相手等、希望にそって支援している		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪も資格のある職員が各人の好みに応じてカットしている		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの誕生日には赤飯で祝ったり季節感をとり入れた献立を心がけている 利用者の好みも考慮し、職員も一緒に食べながら見守りしている 年に3～4回皆さんの好物のにぎり寿司で喜んでもらっている 現在は食事の準備や片付けを一緒にする事は困難である	季節感・行事食・利用者の好み等を採り入れて献立を立て、毎食手作りの食事を提供している。現在、調理・後片付けに利用者が参加するのは困難な状況であるが、献立に利用者の好みや希望を反映したり、買い物への同行は行っている。誕生日はそれぞれの日に赤飯や特別メニューでお祝いしたり、希望の多い握り寿司を提供する等、変化が楽しめるようにも工夫している。利用者と職員が同じ食卓で同じ食事を味わい、会話しながら家庭的な雰囲気食事を楽しめる環境である。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、把握している カロリーの過不足にも気を配っている		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけや洗面所への誘導等それぞれの力量に応じた口腔ケアを行っている 義歯の洗浄、消毒も行っている		

グループホーム陽春

自己 者第三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力に応じてポータブルトイレを利用したり、時々尿失禁がみられる利用者には排泄パターンを把握して声かけ誘導をしている	ケアチェック表で利用者個々の排泄状況や排泄パターンを把握し、声かけ誘導により、トイレ・ポータブルトイレなど個々に応じた排泄支援を行っている。変化等があれば、ミーティングやケア会議で現状に即した介助方法や排泄用品を検討し実施している。ドアの開閉・声かけ誘導時や職員間の伝達時の声のトーンに配慮し、羞恥心やプライバシーへの配慮を周知している。一日1000ml摂取を勧め、毎日体操を実施し、便秘の予防にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、便秘の及ぼす影響を良く理解しているので出来るだけ運動することや水分を多く摂るよう全員で取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応の入浴日(週3回)は決めているが一人ひとりの体調や希望に応じて柔軟に対応している 羞恥心へも配慮しつつ、安全の為に見守り介助して入浴を楽しむ支援をしている	週3回の入浴を基本とし、利用者の体調や希望に応じて臨機応変に対応している。入浴を嫌がらないよう利用者には声かけやタイミングを工夫している。見守りや、2人介助等、利用者の状況に応じて安全に入浴できるように支援している。個浴での入浴、浴室のドアとカーテンにより、羞恥心やプライバシーにも配慮している。入浴剤の使用や、ゆず湯も適宜行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中は活動してもらって夜間は安眠出来るよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個別にファイルして職員が内容を把握している 服薬時は見守り確認している		

グループホーム陽春

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの得意分野でお願い出来そうな事を頼んだり 散歩や歌等一緒に楽しんでいる		
49	(18)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりに合わせて近くでの散歩や、近所のスーパー等へ買物に行っている 歩行が不安定な人はシルバーカーを利用している 外出が難しい人は敷地内で外気に触れ気分転換が出来るよう支援している	気候や利用者個々の状況・希望に応じて、ホーム周辺や近隣の公園への散歩、近隣のスーパーへの買い物に外出している。シルバーカーや車椅子なども使用して、機会均等に外出できるように配慮している。外出が困難な利用者は、敷地内にテーブルを出して、お茶やプランターの花を楽しみながら外気浴できるように支援している。行事予定に、お花見会・小学校運動会見学・菊花展見学等、季節の外出や地域交流の機会づくりを採り入れている。	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度のお金は、それぞれ財布に持っているが自分で買い物は出来ない		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話は職員が段取りして本人に出てもらっている 現在1人だけ携帯電話をもっているが殆んど使用していない		
52	(19)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広いリビングがあり普通の家庭のように台所で洗い物している様子や話し声が聞こえる空間づくりになっている 壁面には毎月季節のものを飾るよう工夫している	リビングは明るく、整理整頓され清潔感がある。テーブル席とソファセットがあり、思い思いにくつろげる環境である。季節に応じた作品を利用者と共に制作して壁面に飾り、季節を大切にしている。プランターにも季節の花が植えられ、外気浴の際に水やりや鑑賞できる環境である。毎食手作りの調理を行い、台所からの音や匂いで生活感も感じられる。	

グループホーム陽春

自己 者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関横のスペースに小さなテーブルと椅子を置いたり、リビングの壁側にソファをおいて思い思いに過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れたタンスやコタツ等持ち込んだり、家族の写真や置物を飾る等工夫している	居室は1階に3部屋、2階に2部屋設け、ベッド・クローゼット・エアコンを設置している。家族の協力を得て、たんす・こたつ・テレビ等使い慣れた家具や、家族の写真・仏具等大切にしているものの持ち込みを勧め、落ち着いて過ごせる居心地のよい居室づくりを支援している。名札や本人がわかりやすい目印をつけ、部屋間違いがないように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の入り口等に手すりを設けることで、安全で自立した生活が送れるよう工夫している 居室のドアには名札や目印になる絵等を貼り分かり易くしている		